

5、偶然と確率を正しく理解する

偶然の一致...日常生活の中に多く存在する

超常現象と称されるもの...単なる偶然では説明できないし、他に妥当な説明が無いもの

ただし、「偶然でない=超常現象」の論理は短絡的。

何でもかんでも「単なる偶然でない」とみなすことは、確率と偶然を理解していない証拠

確率に対する正しい知識の必要性

確率.....分子か分母のどちらかの判断が不正確なら、確率の判断に誤りが生じてしまう。

公式に正しい数値を代入しなかったために確率判断で誤りを犯すことが多い。

確率と利用可能性

我々にとって、ある特定のものは他のものより利用可能性が高い

注意すべきこと

・“等質性の概念”が適応できるかどうか

(人の判断の好みは特定のものに偏る傾向があるので、等質性の概念が適さない場合が多い点に注意)

確率と代表性

我々は順序がランダムかどうか判断する際、代表性ヒューリスティクスを用いる。つまり、我々はランダムさを判断する際自分の持っているランダム性という概念と合致するかどうかに従って考える。

注意すべきこと

・大数において作用する法則を小数の場合に単純にあてはめていないかどうか

・自然が自己修正を行うという誤った信念に惑わされていないかどうか

・「単なる偶然(偶然の一致)」の現象を、短絡的に超常現象と結び付けていないかどうか

6、間違った信念は強められてしまう

主観的確証...有利とも不利ともつかない証拠を、自分の信念を支持するものとして読み取ってしまう傾向

信念 = 自己永続的な性質を持つとみなせる

期待効果...主観的確証の一つ、見ようと期待している通りに見えてしまう効果

注意すべきこと

・我々自身が期待している通りにものごとを見てしまっていないかどうか

自己成就予言...信念を持つことで自分の認知や行動、更には他人の行動に影響を与え、これらの影響力によって事態が変化してしまうこと

ピグマリオン効果...期待することによって相手もその期待にこたえるようになる、という効果

注意すべきこと

・我々の信念は、元は嘘であっても自分の期待と一致するように自分自身や他人の行動を導くことで、やがて現実となる場合がある。故に、自分が積極的的信念か否定的信念をもっているかどうかで、自分や他人の将来を左右してしまう可能性がある。